

令和7年度 水沢工業高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

～ 日常の生活の質や教職員人生を豊かにするなど教職員のウェルビーイングを確保～

水沢工業高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

- 令和6年度の教員の月平均時間外勤務は、25.2時間であった。
- 月80時間以上の時間外勤務を行った教員は1年間で延べ0名、月100時間以上の時間外勤務を行った教員は1年間で延べ0名であった。
- 月45時間超の教員は延べ107名、年360時間超の教員は延べ18名であった。
- 令和6年度の年次休暇取得率は、時間に換算して43.3%であった。
- 令和6年度の健康管理区分がC1・C2の教職員は、36名であった。
- 学級担任・分掌・部顧問等の業務分担に偏りが見られるとともに、進路指導や資格取得指導が一部の教員に偏る傾向がある。

2 目指す姿

- 教職員一人一人が、仕事にやりがいを感じるとともに、「チームすいこう」として、教職員が協働し、支え合いながら業務を遂行している。
- ワーク・ライフ・バランスがとれ、家庭やプライベートの時間が確保できている。
- 管理職が日頃から、教職員に対し面談を行い、業務に対する適切なサポートを行っている。
- 管理職が学校全体の業務量の軽減、負担感の緩和に努めている。
- 教職員が優先順位を考えながら、効率的に業務に取り組んでいる。

3 取組内容

○ 教職員の健康管理

- 長時間勤務者に対する面談を行うとともに、必要に応じて業務の在り方を検討・改善します。
- ワーク・ライフ・バランスシートを活用するなどして、教職員の状況を把握し、サポートします。
- 健康診断やメンタルヘルス相談等の積極的利用を推奨します。
- 年次休暇・特別休暇等の積極的な取得を推奨します。また、学校閉庁日を設定します。

○ 学校における業務改善の推進

- チームすいこうとして教職員の協働体制を構築し、担任3人制、複数部顧問制により業務の平準化を進めます。
- 業務の効率的遂行への意識を高めます。
- 業務の見直しを進め、形骸化した業務・効果の薄い業務を削減します。
- 部活動休養日を徹底するとともに、部顧問間の連携を強化します。
- 職員会議と職員朝会について、所要時間を短縮します。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- スクール・ポリシーを実現するため、「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」を活用し、地域の自治体や関係機関との連携・協働をより深めます。
- 「コミュニティ・スクール」の導入に向けて、地域とともにある学校づくり推進フォーラムにおける取組事例の発表等を参考にし、「高校魅力化推進コンソーシアム」らの移行も踏まえて、主体的に準備を進めます。

4 目標

- 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を含む。)が月45時間超、年360時間超の教員を、前年度(R6年度)実績より減少する。
- 業務の見直しを進め、各分掌等の1業務以上を削減する。

令和7年5月1日 水沢工業高等学校長 水野扶佐史

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの期間】 令和6年度～令和8年度までの3年間

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月80時間以上の者をゼロにする。

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を含む。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり段階的に縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月45時間超	前年度(R5年度) 実績より減少	前年度(R6年度) 実績より減少	前年度(R7年度) 実績より減少
年360時間超	前年度(R5年度) 実績より減少	前年度(R6年度) 実績より減少	前年度(R7年度) 実績より減少

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上、教職員のウェルビーイングの確保

- (1) 授業や授業準備に集中できている (2) 健康でいきいきと業務を行っている (3) 業務にやりがいを感じている (4) 自分の家庭のための時間を十分に確保できている (5) 自分自身の自由な時間を確保できている